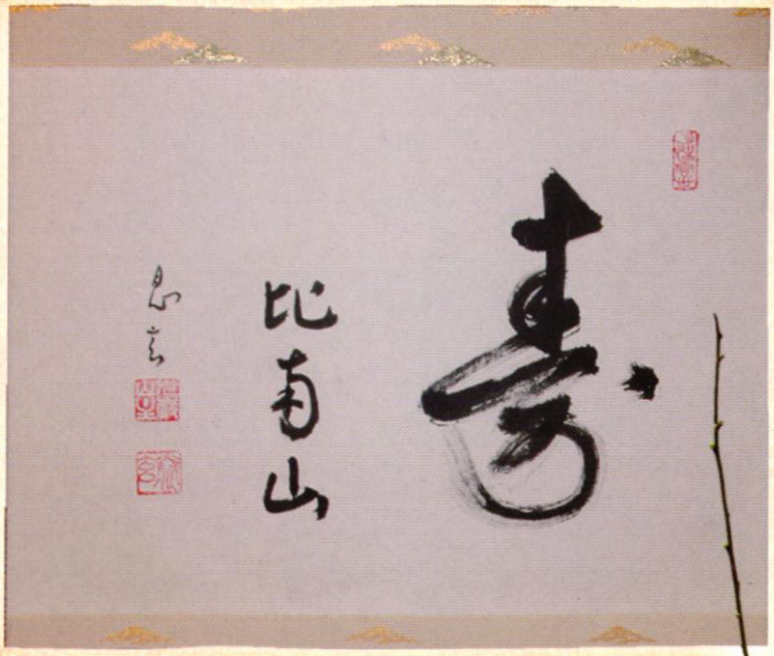
ROTARY CLUB OF KANAZAWA-NORTH　2006年2月23日　第778号

金澤北ロータリークラブ



寿比南山「じゅはなんざんにひす」

月心寺23世・勝田　浩之(泰玄)書　出典―南史(中国南朝の歴史書)

●意　味　南山は、中国陝西省(ひんせいしょう)南安(唐の都長安)の西南にある終南山のことであって、この山自体がひとつの固い岩石でできており、いつまでも永く崩れることがないと信じられた山である。その終南山に人の寿命を比し、幾久しく健康で元気に日送りができることを願った揮毫である。

結び柳(むすびやなぎ)

茶道では、正月の床の間に枝を長く垂らして入れる柳を掛け柳とも言う。柳は、陽の気を招くとされ、枝の中程で一つの輪で結ぶのは、一年間の無事と生命力の強さを象徴したものとされる。又、これは一陽来復(冬が終わって春がくることと、悪から善に向かうこと)を示すと共に、新年の祝意を表したものである。

月心寺主・勝田　浩之

―― 世界理解月間にちなんで ――

私の事業と海外交流

玉田 善明

当社はタンク製造業、即ち非常にロウテクで且つ重厚長大産業に属します。本来は随分昔に中国等に占有されて、とても国内では成り立って行かない製造業に属する訳ですが、重厚長大（平均：直径２.４ｍ、長さ10ｍ、重さ７ｔ）が幸いして、輸入するにも、余りにも付加価値が低過ぎて輸送費で合わない為に、未だに健在な形で存在出来ています。

ＳＦ２重殻タンクとは、鋼製タンクにＦＲＰ（プラスチック樹脂）を被覆したタンクを言いますが、元はと言えばアメリカが発祥の地です。我が国はＨ５年に消防法により認可され、現在は危険物地下貯蔵タンクの100％がＳＦ２重殻タンクに成りました。

Ｈ５年の春頃、突然「今年の秋頃より消防法が改正されて、ＳＦ２重殻タンクが認可されそうだ」との情報をモービル石油の外人さんよりお聞きし、「何・・それは？」と驚きと同時に、不安が一瞬頭の片隅を過ぎりました。

ＪＥＴＲＯ金沢事務所に訪問し、アメリカでのタンクメーカーを索引、３社を発見し、真夜中（アメリカのお昼）外人留学生の女の子に依頼して、先方に電話掛け捲り、ついに３社から訪問受け入れのオファーを取り付けました。通訳を伴い７月、勇躍当社開発部長と３人アメリカに旅立ちました、カリフォルニア州フレズノ市、サンディエゴ市、フロリダ州タンパ市にある工場を視察しました。大きなタンクをバーベキューで牛を１頭串刺しにして廻しながら丸焼きするごとく、タンクを回転させてＦＲＰを吹付けしている現場を見て驚き、その壮大さに感心しました。早速、帰国して我が国の規制に有った造り方を研究・開発し、どうにか12月頃には玉田流ＳＦ２重殻タンク製造方式が完成しました。おりしも、消防法は９月から認可され、翌年２月からは実際市場に販売される様に成りました。当社も富山県、沖縄県に第１，２号タンクを設置して新たなビジネスの幕開けと成りました。アメリカ人の考える壮大なもの造りの現場を見て、大いに勉強に成り、反面造り方の雑さにも日本人と違う点を感じました。その後、ある縁で、当社の技術をタイのタンクメーカー、チャナコン社の息子チャーバリット君が是非採用したいと言う事に成り、めでたくＨ７年にはタイ、バンコクでの製造が開始されました。アメリカ生まれのタンクが、日本で加工されてバンコクに移転される結果と成った事が、私にとっては偉大なる国際間での職業奉仕に繋がったと考えています。東南アジアでの実績がタイで生まれた事で、シンガポールのエッソ石油技術担当のトーマス・ティオさんから一度説明をしに来て欲しいとの依頼があり、単身下手な英語を覚悟の上参りました。汗と恥を一緒にかきながら懸命にプレゼンテーションをこなし、結果何となく通じたのか、マレーシアのチップガイ社を紹介され、早速クアラルンプールに飛び、スチーブン・ホー社長にお目に掛かりました。ホー社長は美人秘書、幹部社員２名の総勢４名で、雪が一杯積もっていた冬の日当社を尋ねて来られました。当社訪問後、湯涌温泉にご招待した所、マレーシアの暑い国から来て、雪を見て温泉に浸かり、すっかりご満悦の体で、どこの国の人も同じなんだなあと思ったものです。彼らはタンク製造現場を見学後、即座に採用を決め、帰国後速やかにマレーシアでの生産も始まりました。チャーバリット君は当時24,５歳でしたが、今では結婚して素晴らしいお父さんに成っています。英語も堪能で、性格も少し遊び好きで浮ついた所がありましたが、人懐こい賢い人で、私はとても彼を評価しています。ホー社長は華僑系の中国

系マレーシア人で、マレーシアでは中国系の経営者が幅を利かしているのが現状です。私より10歳程年下ですが、とてもバイタリティの有るビジネスマンで、ヨーロッパ、オーストラリア、日本と世界中を飛び回っていると言っても過言ではありません。

一昨年12月、ご縁があり、中国の上海の少し東北にある江陰（ジャイン）市の富仁（フーレン）社、哀(エン）社長が当社にタンク技術を導入したいと訪問されました。未だ37歳の哀社長ですが、ベンツを2台持ち、年収でも数千万円有り、今の中国での青年実業家の一人として活躍されている方だそうです。こちらも、昨年4月末にトントン拍子に契約が決まり、即当社タンク技術導入が決定され、現在は5万坪の敷地にタンク専用工場が新設され、今年3月から本格的SF2重殻タンクの生産が中国でも開始される様に成ります。37歳といえば日本では、ある種のIT関連社長等を除きまだまだ駆け出しの経営者と見えますが、総じて今のアジアの経済界は若い力が台頭しているのが現実です。30歳台で、大きな意思決定権を持ち、前向きにチャレンジして行く彼らの姿に、いつまでも若いと自負していた私は、いつしか彼らのバイタリティに遠く置いて行かれた様な気持ちに成って居る今の自分に気付いた時、急に「俺も年を取ったなぁ」という感慨に陥りました。

「決断」は蛮勇に繋がり、それは若さが司り、「判断」は経験と知性が司り、それは深い深遠な思想に迄達する故、年配者の領域である、とも申します。幼、小、青、壮、熟、老年それぞれの分野でこそ世界の政治、経済面で秩序・バランスも保たれ廻って行くのでしょうか。

ともあれ、アメリカ生まれのタンクビジネスが、私が少しお化粧をすることで、アジアの一隅で花開く国際ビジネスの一端を経験出来る幸せをかみ締めております。

2005－2006年度 国際ロータリー第2610地区 石川第1分区　都市連合会 INTERCITY MEETING 報　告

幹事　勝田　浩之

東北地方で2月に降る雪を涅槃雪と呼ぶところがある。言うまでもなく釈迦の涅槃会に因んだ呼び名である。12日は、それを思わせる様に朝から雪が舞い、凍りつく寒い日となった。しかし、会場の日航ホテルはそんな寒さを感じられないほどの暖かさと、第1分区の出席者の熱気に包まれていた。登録者数488名。我がクラブは、全員登録の68名。午後1時、高本昭二第1分区ガバナー補佐の開会点鐘により第1分区内13クラブにおける合同例会が始まった。ホストクラブ百万石RC二木秀樹会長の挨拶と特別出席者の紹介。ニコボックスの発表後閉会点鐘。引き続いて式典に入り、点鐘、開会宣言、「君が代」、「奉仕の理想」の唱和。炭谷亮一第1分区ガバナー補佐の開会挨拶に続き、菊知龍雄ガバナーの挨拶。休憩を挟んで本会議に入った。兎に角会場が暖房と熱気で暑くなり、ホストクラブの計らいで喫煙コーナーと冷水が用意されていたのは有難かった。

第1部では、「私にとっての職業奉仕とは」のテーマを掲げ、入会10年未満の6人の方による発表とパネルディスカッション。第2部は、「21世紀に生きるロータリークラブ」のテーマを掲げ、入会5年未満の6人の方による発表とパネルディスカッションを行った。

この紙面において、それぞれの発表や意見についての詳細は記することはできないが少々の意見と感想を紹介しておこう。

第1部

○当然ながら発表者の職業を通じての生き様によって、人、社会、国（含外国）、環境にまでもやさしく、互いに尊重しあえるように勤めていかねばならないことは一貫性を帯びていた様だ。

○与えられたテーマが大きすぎた感がある。故に、副題を付けた方がおられたのは理解できた。

○ 要は、理(奉仕の理論)で話すか、事（実践面）で話すか

○ 会議全般を聞いて思い出したことばがある。金子大栄先生は、人は日頃より３つの有難さを思えと言っている。その１つに「分を尽くして用に立つ」ということがある。つまり自分自身の仕事を励むことが、そのまま世の中の為、人の為になるということである。

自分の為とのみ思っていることが、はからずも世の中の為になるということはありがたいことであると言う。

第２部

○保守派と改革派に分かれた意見が出た。

保守派—ロータリーの精神を今一度再確認し、会員一人一人が言行を「四つのテスト」に照らして行くことが、その発展とグローバル化に繋がる。

『ただ本を得て末を愁うること莫れ』ということばがある。本質、根本を大切にしていくことが大事であり枝葉末節にこだわるなという意味である。

改革派—各クラブ会員の交流特使制度の試みとしてマンネリ化したクラブの活性化を願い、会員を一定期間交換してみるという意見が出た。

・ 女性会員の増強

歴史の深い某クラブ(？)においても率先して女性会員を入会せしめる規範となっていただきたいという意見

菊知ガバナーの講評の後、閉会挨拶、点鐘にて終了。

場所を隣室に移して懇親会に入った。連休の２日目ということで全体の出席が少なかったように思えた。少々の満腹感とお酒が入り、最後に「手に手つないで」の合唱後解散した。

第1569回例会

2月9日(木) 晴れ　12：30～13：30　　松魚亭

1．講　話

ＮＨＫ金沢放送局　局長　山本哲也氏

「デジタル元年」

2．出　欠

出席45名　欠席22名

出席率67.16％　ビジター５名

3．来訪者（敬称略）

小松東RC　山腰　茂

金　沢RC　山本哲也　佐野由於　河野良三

香林坊RC　今田伸二

4．幹事報告

・本日例会終了後、理事会を開催いたします。

ニコニコボックス

高畠君、勝田君

ＮＨＫ金沢放送局長、山本哲也様を迎えして。本日はよろしくお願い致します。

川面君、魚住君

講師に山本ＮＨＫ金沢放送局長をお迎えして。

合計4,000円（累計412,000円）

理　事　会　報　告

2月9日(木)出席者18名

◆ 審議事項

①お花見夜間例会ゲストの件

和菓子の実演（中田屋）と呈茶

②その他

◆ 各委員会報告

・会員増強

講　話　予　定

3月2日(木)

講師　中西静子氏　真味の会講師

3月9日(木)

演題：最近の金融経済動向について

講師　佐藤毅一郎氏　日本銀行金沢支店長

会　　長：高畠　菊丸　　ＳＡＡ：吉井　清

会長エレクト：米澤　眞二　　会　計：濱井　弘利

副 会 長：小間井宏尚　　広報委員長：中村　芳明

幹　　事：勝田　浩之　　会員数：68名

副 幹 事：松田　忠秋　　クラブ設立：昭和48年10月3日

例 会 日：木曜日　12：30～13：30

例 会 場：松魚亭　金沢市東山1－38－30

TEL〈076〉252-2271　FAX252-2273

事 務 局：金沢市尾山町9－13・金沢商工会議所内

TEL〈076〉222-2525　FAX224-2882

E-mail:k-kitarc@aqua.hokuriku.ne.jp

この会報は再生紙を利用しています。